



◆ 野外オペ「テーレン」その①

1月8日～14日の一週間、地圏グループの支援員として、「テーレン」という露岩域の野外オペレーションに参加しました。その報告をします。

8日、7:30。第一夏宿から樋口越冬隊長運転のトラックに荷物を積み、Aヘリへ向かいました。途中、第一車庫で食料数箱も積み込みます。基地から搭乗するのは、私と大学院生の白水隊員の二人です。残りのメンバーを、野外調査中の「スカーレン」へ迎えに行きます。8:05、CHヘリで出発。ところが、スカーレンへ迎えに行くはずが、物資量が多いということで、先にテーレンへ降ろされました。ヘリの爆音の中、耳元で「必ず、来ますからね」とささやく自衛隊飛行科の鹿屋2曹。「そりゃ、来てくれないと……。ここは、南極だよ……。」と心の中でつぶやく私。ヘリは、凄まじいダウンウォッシュで砂粒を浴びせながら去っていったのでした……。



眼下に見えたテーレン



手を振りながら去っていくCHヘリ

二回に分けてスカーレンから物資が運び込まれました。1回目は、スカーレンに支援に入っていた住吉、笹森隊員（二人は2回目の輸送後、基地へ帰ります）が、2回目に土井、川又隊員が荷物とともにテーレンに降り立ちました。その後、すぐにテント設営。就寝用テント3張、食食用テント、トイレ用テント、そして、命の絆・通信アンテナを張りました。4人のキャンプ生活の始まりです。昼食後は、調査地域の下見を兼ねて川又隊員と周辺の散策に出かけました。そして……、眼前に広がる氷河に圧倒されたのでした。



物資。これでも、まだ半分。



残された二人。食料はあるが……。



キャンプサイト



昼食の準備。手慣れた二人。

◆ JARE57 隊員紹介

土井 浩一郎 (55) 夏隊 一般研究観測 兵庫県出身
国立極地研究所 研究教育系 第41・45次越冬隊

県立姫路西高校から京都大学農学部へ進学。理学部地球物理学科へ転部し、大学院へも進学。科学技術特別研究員等を経て、1995年より極地研へ入る。地圏研究グループに所属。リモートセンシング技術を用いて、重力の時間変化や氷床変動の研究に取り組んでいる。氷床の有無で、地球形状が変化するが、それが、最近の弾性変形によるのか、昔の粘性変形によるのか、絶対重力計のデータとの比較検討を行っている。南極では、合成開口レーダーや衛星高度計データの地上検証に携わってきたが、57次ではおもに、氷河GPS観測に取り組む。南極の魅力は、何といても自然が美しいこと。皆さんへは「いろんなことに興味を持って、考えるだけじゃなく、体験してほしい」とアドバイスをいただきました。



テーレン氷河をバックに

◆ 南極トリビア

南極トイレ事情。浄化槽の完備した基地では、汚泥を焼却後、焼却灰を持ち帰ります。では、野外では？④は凝固剤を入れ、基地まで持ち帰り焼却します。ここで問題。さて、④はどうなっているでしょう？

- ① どこでもOK ② 雪上ならOK ③ 海氷上ならOK
- ④ 土を掘ればOK ⑤ 池ならOK



トイレ用テント



ペール缶トイレ